

令和7年8月10日からの大雨時における水防本部・災害警戒本部
の体制及び活動に関する検証委員会 第3回会議 議事要旨

(1) 第2回会議の議事要旨について

・事務局から説明

(2) 答申案について

・事務局から説明

(会長)

これまでの議論をもとに、事務局で答申案をまとめてもらいました。中でも、最後に書かれている「提言」の部分が特に大切だと思いますので、そこを中心に、皆さんのご意見をいただければと思います。

(委員)

今回の提言について、どのような事象への対応を対象としているのか、時系列として、災害発生への対応にとどまらず、復興期までの一連の対応を対象とするのか、整理したほうがよいと思います。

また、提言の各項目については、優先度を整理して、それぞれの重要性に応じた表現にするとよいと思います。

そして、関係機関との連携強化については、熊本市は現在も関係機関との会議体が全く無いわけではなく、防災会議や懇談会のように既に実施されている会議がありますので、例示として会議名を具体的に記載しつつ、既存の会議体を更に活かしていく趣旨の内容を記載するとよいと思います。具体的に記載することで、このような機会があるという周知になりますし、参加する者の意識向上にもつながると思います。

(委員)

マニュアルの見直しに関しては、単に内容を更新するだけでなく、見直した箇所について職員間で確実に共有することが重要ですので、「見直したうえで職員の中で共有する。」という記載にした方がよいと思います。

(委員)

マニュアルの検証のところで、今回の課題のうち対応に時間を要するものへの検証について書かれていますが、それらについてもできる限り速やかに実施する必要がありますので、その旨を文章中に明確に示したほうがよいと思います。

(委員)

スペシャリスト職員の育成に関して確認で、現在気象台内で防災に関する様々な研修や訓練を行っているところですが、熊本市でも機会を捉えて育成していくという認識でよいでしょうか。

(事務局)

第2回会議で、委員から熊本地方気象台が実施している出前講座等を利用するなど職員育成に活用できるのではとのご意見をいただきましたので、答申書に記載させていただいたところです。

(委員)

ありがとうございます。気象台でも出前講座や訓練等について今後も協力していくので、これまでの連携を通じた職員の育成について再検討いただきたいと思います。

(会長)

スペシャリスト職員の育成については、最終的には熊本市の人材育成方針の中で決められるものですので、委員会からの提言としては、「スペシャリスト職員の育成を検討してはいかがか。」というような提案ベースの表現に工夫したほうがよいと思います。

(委員)

今回の問題の背景には、過去の被災経験が十分に継承されておらず、災害対応業務に対して、市職員全体が「自らの業務」としての認識が十分でなかった点があると考えられます。

そのため、提言の冒頭には、災害対応に対する基本的な姿勢や意識の重要性を示す、総論的なメッセージを記載することで、関係者間で意識を共有することが重要です。

(委員)

職員の負担軽減に関する話題のところでAIについての記載がありますが、これから検討を進めるのであれば、「防災分野においても最新技術を日頃から研究し、AI等の導入を検討する」というような表現がよりよいと思います。

(会長)

皆様、本日は誠にありがとうございました。多くのご意見をいただいたおかげで、提言の内容をより良いものにすることができました。

今後、本日いただいたご意見を反映させ、答申書と概要版を確定してまいります。最終的な確認は、会長である私に一任していただけますでしょう。

か。また、答申書の提出方法については、私と事務局とで調整させていただいてよろしいでしょうか。

(委員)

異議ありません。

(会長)

ありがとうございます。

これで、本検証委員会を終了します。